



AKITA

〔5月〕

県内経済

概況

県内経済は、全体として持ち直しの動きが続いている

機械金属の生産は弱含んでいるが、電子部品、木材は持ち直している。建設は、公共工事が前年を下回ったほか、住宅着工も増勢が一服した。個人消費は持ち直しの動きとなっている。雇用情勢は改善傾向にあるが、一部業種では人手不足が深刻化している。

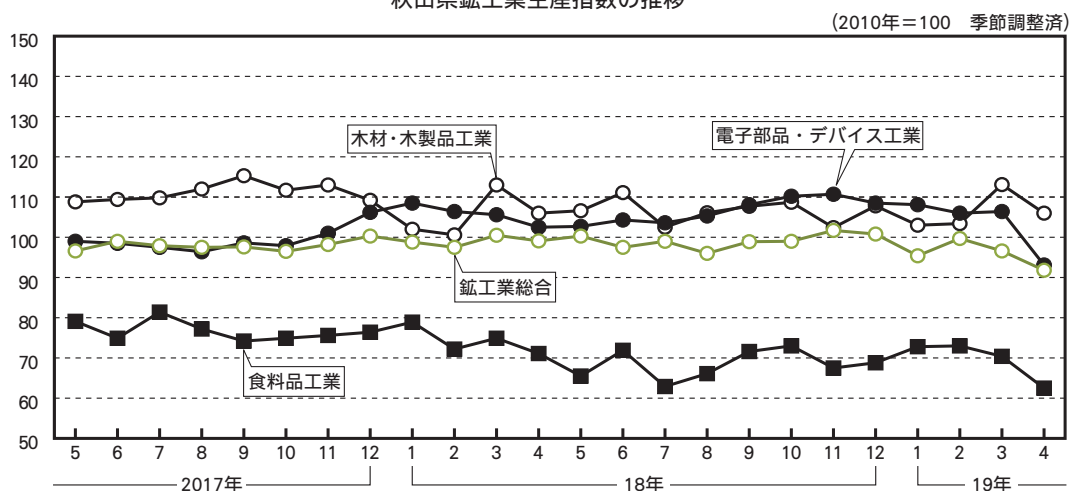
産業別の動向では、電子部品の生産額は、スマートフォン向けが中国市場の減速などから減少が続いているが、車載向けは堅調に推移し、3か月ぶりに前年を上回った。機械金属の生産額は、輸送機械で一部自動車メーカーによる完成車の不正検査問題が影響し、2か月連続で前年を下回った。木材は、普通合板(4月)、製材品ともに持ち直しの動きとなっている。公共工事請負額は、県や市町村が減少し、2か月連続で前年を下回った。地元大手(12社)の建設受注額は、民間工事が振るわず、2か月ぶりに前年を下回った。住宅着工は、持家、

貸家、分譲住宅がともに減少し、6か月ぶりに前年を下回った。個人消費は、小売店販売額(4月)、新車乗用車販売台数がともに前年を上回り、全体として持ち直しの動きとなっている。

有効求人倍率は前月比0.03ポイント低下の1.50倍となった。新規求人数は前年比9.6%減となり、2か月ぶりに減少した。事業主都合離職者数は72.8%増となり、3か月ぶりに前年を上回った。

企業倒産件数は6件、負債総額は9億2,700万円であった。倒産件数は2012年11月以降、一桁台またはゼロ件で推移している。

秋田県鉱工業生産指数の推移



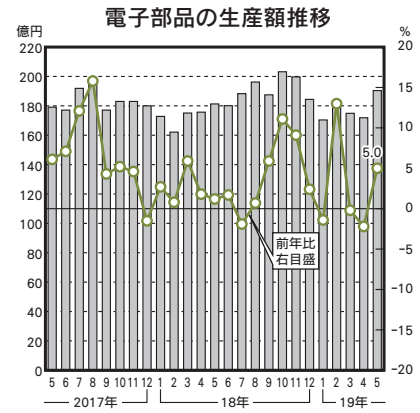
資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」

電子部品

生産額、3か月ぶりに前年を上回る

5月の生産額は前年比5.0%増と3か月ぶりに前年実績を上回った。電装化や先進運転システム（ADAS）などの技術革新が進む車載向けは中国経済減速の影響などから伸びが鈍化してきているものの、国内向けが堅調なこともあり高水準を保っている。スマートフォン向けは中国市場の減速などから市場全体が停滞しており減少が続いている。

その他品目別では、主力のセラミック・コンデンサやインダクタは堅調に推移しているものの、半導体素子は減少傾向が続いており、産業向け液晶パネルも減少に歯止めがかかっていない。



(当研究所調べ、県内4社)

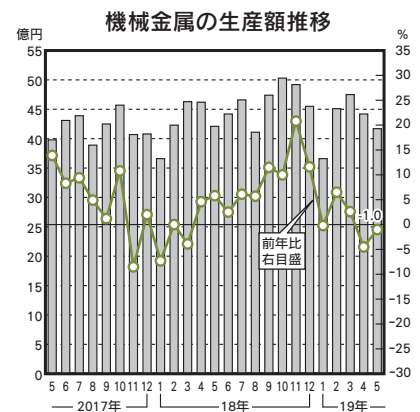
機械金属

生産額、2か月連続で前年を下回る

5月の生産額は前年比1.0%減と2か月連続で前年実績を下回った。

設備投資の減速により金型が落ち込んだことに加え、ウエイトの高い輸送機械において、自動車部品メーカー1社で完成検査のデータ書き換えや無資格者検査が発覚し、生産額が落ち込んでいることが影響した。

その他の民需関連では、製鋼品は減少に歯止めがかかっていないものの、建機部品は持ち直しの兆しがみられる。公共工事関連では、水道部品は堅調に推移しているが、橋梁・鉄骨は減少が続いている。



(当研究所調べ、県内8社)

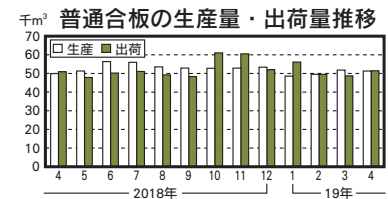
木材業

普通合板、製材品とも持ち直しの動き

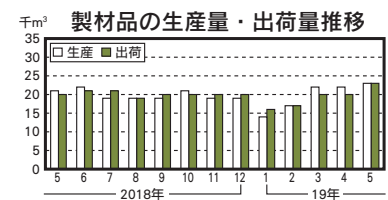
全国的に、木造の新設住宅着工戸数が堅調に推移する中、改元にとまなう4月末からの大型連休により稼働日数は減少したものの、普通合板、製材品とも出荷量は前年を上回って推移しており、県内でも総じて持ち直しの動きとなっている。

4月の普通合板は、生産量が前年比2.8%増と8か月ぶりに増加し、出荷量も同1.0%増と3か月ぶりに前年を上回った。出荷量が生産量を上回り、在庫量は前月より減少したものの、前年比では15.2%増と22か月連続で前年を上回った。

5月の製材品は、生産量が前年比9.5%増、出荷量は同15.0%増と、引き続き持ち直しの動きが続いている。



資料：秋田県農林水産部林業木材産業課



資料：農林水産省「製材統計」

酒造業

出荷量、連休前に出荷が増えた反動で大幅減

5月の清酒出荷量は、前年比10.9%減と、2か月ぶりに減少した。4月末からの改元にもなう10連休前に出荷が大幅に増えた反動から、二桁の減少率となった。出荷先別では、県内向けは同18.1%減、県外向けも同7.1%減となった。県外の主な出荷先別では、東京が同4.2%減、東北5県は同14.8%減、北海道も同0.3%減と、いずれも減少した。

清酒の種類別では、普通酒は前年比17.1%減、特定名称酒も同4.0%減と、ともに前年を下回った。特定名称酒の内訳では、吟醸酒が同1.7%増と前年を上回った一方で、本醸造酒は同16.9%減、純米酒も同6.5%減と前年を下回った。



資料：秋田県酒造組合

建設業

公共工事 県や市町村が減少し、2か月連続で前年比減少

5月の公共工事請負金額は、国や独立行政法人等が増加した傍ら県、市町村が減少し、前年比0.6%減と2か月連続で減少し、年度累計でも前年同期比1.0%減となった。

一方、当研究所調査による地元大手12社の5月の新規受注額も、前年比6.2%減の3,363百万円と2か月ぶりに前年を下回った。うち官公庁工事は、山林道の災害復旧工事や庁舎・公立学校の新改築工事等の大口受注があり、同111.2%増と伸びたが、民間工事は、同88.5%減と前年実績を大きく下回った。ただし、年度累計実績では4月の受注増が寄与し、前年同期比9.3%増と前年を上回っている。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	5月	前年比	4月~5月	前年同期比
件数	186	5.7	524	1.2
請負金額	10,478	△0.6	36,585	△1.0

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	5月	前年比	4月~5月	前年同期比
官公庁	3,120	111.2	4,204	74.6
民間	243	△88.5	1,486	△46.9
合計	3,363	△6.2	5,690	9.3

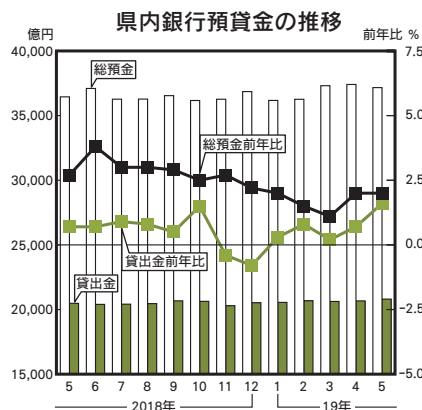
(当研究所調べ、県内12社)

金融

貸出金、前年比増加率が拡大

5月末の県内銀行の預金は、前月末比243億円減少したが、前年比では2.0%の増加となった。貸出金は、前月末比137億円増加し、前年比でも1.6%の増加となった。預金、貸出金とも前年を上回って推移しているが、貸出金の伸び率が前月より拡大したのに対し、預金の伸び率は横這いとどまった。

5月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は6件(前年比3件増)、負債総額は9億2,700万円(同42.8%増)となった。倒産件数は2012年11月以降79か月連続で一桁台または0件で推移しており、低水準が続いている。



資料：秋田県銀行協会

住宅着工

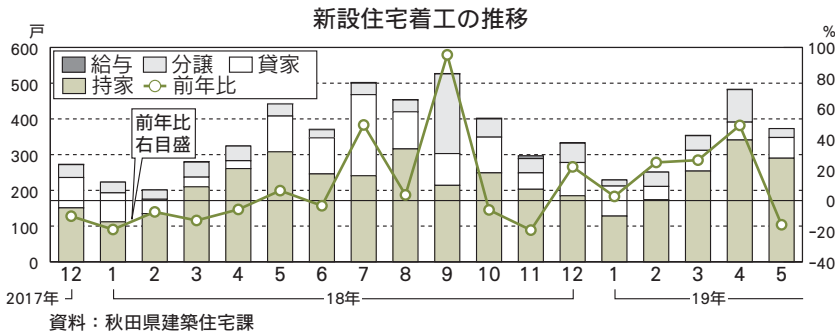
着工戸数、6か月ぶりに前年比減少

5月の県内新設住宅着工戸数は、373戸（前年比70戸減、15.8%減）であった。主力である持家のほか、貸家、分譲住宅、給与住宅のすべてが前年を下回り、6か月ぶりに前年比減少となった。

利用関係別では、持家が290戸（前年比18戸減）、貸家が58戸（同42戸減）、分譲住宅が25戸（同9戸減）、給与住宅が0戸（同1戸減）となっている。

持家は6か月ぶりに前年を下回った。貸家は秋田市、大館市、にかほ市などで民間の一般向け賃貸住宅が減少し、3か月ぶりに前年を下回った。分譲住宅は一戸建てが減少し、2か月ぶりに前年を下回った。

地域別では、県北・県央・県南の全地域で前年を下回った。県北は貸家と給与住宅、県央は持家、貸家、分譲住宅、県南は持家と分譲住宅の着工がそれぞれ減少した。



住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	2019年5月	前年比	19年1~5月	前年比
県北	73	△24.7	332	5.7
県央	196	△15.9	877	7.3
県南	104	△8.0	481	41.5
合計	373	△15.8	1,690	14.9

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

持ち直しの動き

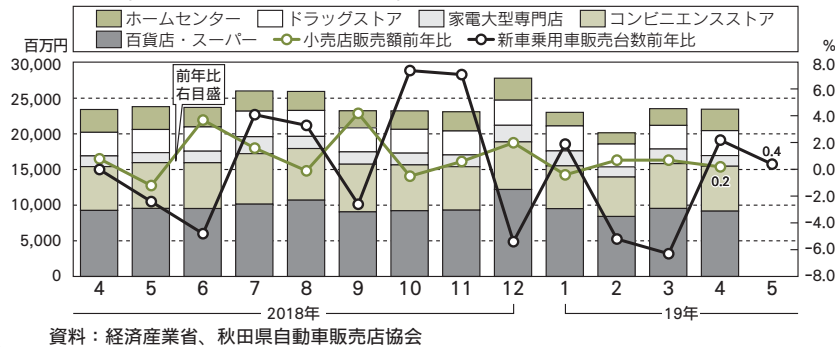
4月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、合計で前年比0.2%増となり、3か月連続で前年を上回った。ホームセンター（同6.1%減）、家電大型専門店（同0.3%減）などで減少したものの、ドラッグストア（同5.9%増）、コンビニエンスストア（同2.5%増）で増加した。

百貨店・スーパー販売額は、前年比1.1%

減となった。衣料品は、紳士服を中心に振るわず、2か月連続で前年を下回った。飲食料品は僅かながら回復がみられ、7か月ぶりに前年を上回った。

5月の新車乗用車販売台数は、前年比0.4%増の2,816台となった。登録車で減少したものの、軽乗用車で増加し、2か月連続で前年を上回った。

小売店（商業動態統計主要6業態）販売額・新車乗用車販売台数の推移



5月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,816	0.4
登録車	1,560	△1.1
普通車	698	15.8
小型車	783	△11.3
輸入車	79	△13.2
軽乗用車	1,256	2.3

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）(単位：%)

区分	2月	3月	4月
①消費者物価指数	0.1	0.5	1.1
②勤労者名目賃金	△5.5	△7.0	△6.9

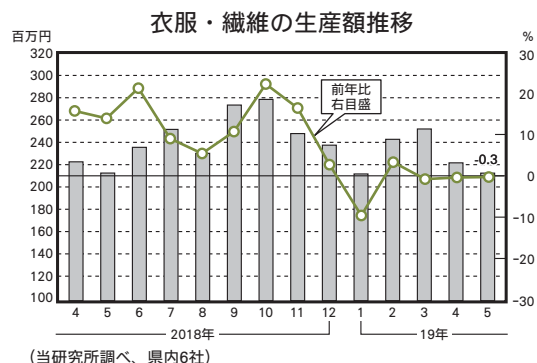
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、3か月連続で前年比減少

5月の生産額は、前年比0.3%減となった。稼働日数の減少や資材入荷の遅れなど大型連休の影響もあり、3か月連続で前年を下回った。

受注も、夏物から秋冬物への切り替え時期に差し掛かっているが、先行きの不透明さから動きは鈍く、2か月連続で前年を下回った。



雇用

有効求人倍率は1.50倍、高水準続く

5月の有効求人倍率は、1.50倍となった。前月比0.03ポイント低下したものの、高水準が続いている。常用の内訳では、一般は前月比0.01ポイント上昇の1.29倍、パートは同0.04ポイント低下の1.32倍となった。

新規求人数は前年比9.6%減となり、2か月ぶりに前年を下回った。産業別にみると、製造業は同17.0%減となった。「木材・木製品」、「情報通信機械」で大幅に増加したものの、「電気機械器具」、「電子部品・デバイス・電子回路」、「食料品」などで二桁の減少率となった。非製造業は同8.7%減となった。「情報通信」、「生活関連サービス、娯楽」

などで増加したものの、「サービス」、「卸売、小売」、「医療、福祉」で二桁の減少率となったほか、「運輸、郵便」、「建設」でも減少した。

新規求職者数は前年比6.0%減と、3か月連続で前年を下回った。

事業主都合離職者数は、前年比72.8%増となり、3か月ぶりに前年を上回った。

地域別雇用状況（パートを含む常用）をみると、新規求人数は県北、県央、県南の全地域で減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.49倍、県南が1.32倍、県央が1.21倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数（全数）

(単位：人、%)

区分	2019年4月		5月	
	前年比	前年比	前年比	前年比
新規求人計	9,284	1.4	8,330	△9.6
製造業	880	△9.8	818	△17.0
食料品	222	△7.5	124	△36.7
繊維	158	△11.2	172	△16.5
木材・木製品	45	0.0	59	103.4
電子部品・デバイス・電子回路	75	△37.0	74	△36.8
電気機械器具	51	△1.9	47	△38.2
情報通信機械	12	△42.9	21	200.0
非製造業	8,404	2.7	7,512	△8.7
建設	1,052	7.3	939	△3.1
情報通信	54	△26.0	70	9.4
運輸、郵便	477	31.0	411	△7.2
卸売、小売	1,630	6.5	1,445	△15.8
宿泊、飲食サービス	792	△12.2	1,227	0.0
生活関連サービス、娯楽	340	△14.1	390	2.1
医療、福祉	1,952	10.8	1,420	△11.9
サービス	1,079	△8.0	844	△22.0
新規求職者数	5,793	△4.6	4,527	△6.0
有効求職者数	17,816	△1.7	17,437	△4.2

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む。

有効求人倍率および事業主都合離職者数

(単位：倍、人、%)

区分	2019年2月 3月 4月 5月			
	有効求人倍率	1.37	1.32	1.28
パートタイム	1.57	1.53	1.36	1.32
全数(季調済)	1.56	1.52	1.53	1.50
事業主都合離職者数	194	231	446	280
前年比	20.5	△16.9	△19.6	72.8

5月の地域別雇用状況（パートを含む常用）

(単位：人、%、倍、ポイント)

区分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比	前年比	前月比	前月比
県北	1,757	△10.9	1.49	0.01
県央	3,733	△8.6	1.21	△0.03
県南	1,943	△4.2	1.32	0.02
合計	7,433	△8.1	1.30	△0.01

(注) 臨時・季節を除く。